

## 矢作川漁業協同組合中和支部

調査団体名	: 矢作川漁業協同組合中和支部	団体代表者名	: 支部長 大津建男
設立年	: 1902(明治35)年	対応してくれた人の名前	: 支部長:大津建男、副支部長: 水野耕次、会計:中島元三
団体URL	: <a href="http://yahagi-ayu.net/">http://yahagi-ayu.net/</a>	調査員	: 山本幸泰、松山康忠
活動拠点	: 愛知県豊田市平戸橋町波岩87	レポート作成者	: 松山康忠
取材日	: 2018年 1月 9日		

## 活動内容

- ・竹の伐採、除草
- ・おとり売り場でのアユ釣り大会
- ・子供たちの放流体験
- ・魚道の鵜対策(越戸ダムの魚道への糸張り)など

## キャッチフレーズ

川と親しみ、川を楽しむ

## 会のモットー(何を大切にしているか)

どうしたらアユが昔のように釣れるようになるかを考える

## 設立から現在に至るまで変化したこと

今から17年前から竹を切りだした。川が見えるようになるとみんな手伝ってくれるようになった。その後、豊田市の尽力で水辺愛護会もできた。東海豪雨のときに古い橋が流れ、矢作ダムから持ってきた砂で進入路を作って工事をした。進入路を残してもらったところ、洪水があると進入路の砂が流れアユが釣れた。今は上流から砂が流れてこない。河床が深くなり、岩盤になってしまっている。山の石に着くようなコケが川の石に付く。アユが釣れなくなった。川鵜、ブラックバスが増えアユが食べられている。昔は古川の対岸で子供を対象にアユのつかみ取りをやっていたし、船でお祭りや花火もやっていた。

## 連携している団体・専門家・自治体など

豊田市矢作川研究所。地元の町内自治区。

## 現在直面している課題

- ・アユ釣り客の減少
- ・組合員の高齢化

## 今後やってみたいこと

元気なうちはアユを釣る。現地での釣り方教室。

取材状況(左から、大津さん、中島さん、水野さん)



【作業後の状況】  
ソジバ下流 鵜が集まらないように県道から見通し良くした



児童によるアユの放流



支部員での草刈り



コケ除去作業



釣り大会

